

鉄道総研の

技

術

遺

産

File No.29

島文庫

■ 島秀雄のプロフィール

国鉄技師長として東海道新幹線の実現に功績のあった島秀雄については、すでに本誌でも何度か紹介しましたが、その所蔵資料は「島文庫」として鉄道総研図書室で保管されています。

島秀雄は、1901(明治34)年に大阪で父・安次郎(1870～1946)の長男として生まれ、東京で育ちました。安次郎は、本誌の2012年10月号でも紹介したように帝国大学工科大学機械工学科を卒業し、関西鉄道を経て鉄道院に移って、蒸気機関車の国産化に取り組んだ技術者として知られています。後藤新平(本誌2012年9月号参照)のもとで広軌改築計画を立案しましたが、実現には至りませんでした。

島秀雄は1925(大正14)年に東京帝国大学工学部機械工学科を卒業して鉄道省に入り、工作局車両課、大阪鉄道局鷹取工場を経て1941(昭和16)年には名古屋鉄道局浜松工場長となりました。戦後は動力車課長から工作局長を経て国鉄理事(工作局長兼務)となりましたが、1951(昭和26)年に退任し、住友金属工業取締役となりました。

1955(昭和30)年に国鉄総裁に就任



①島秀雄(1901～1998)

した十河信二の要請で新幹線の実現にあたるため、同年12月に国鉄技師長に迎えられましたが、予算不足が指弾される中で、1963(昭和38)年5月に十河総裁とともに退任しました。

国鉄退任後は、1969(昭和44)年に宇宙開発事業団理事長となり、1994(平成6)年には鉄道人として初めて文化勲章を受章しましたが、1998(平成10)年に満96歳で逝去しました。

所蔵資料は、没後に交通博物館(現在の鉄道博物館)などに寄贈されましたが、蔵書の大半は2002(平成14)年2月に鉄道総研に寄贈され、「島文庫」として保存されています。

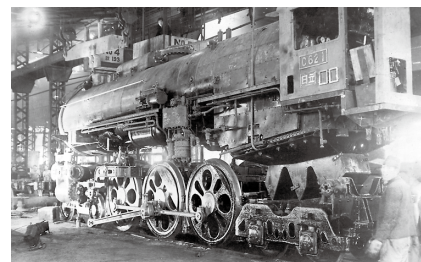
■ 島文庫の概要

島文庫の資料については、このシリーズでも2013年7月号などで取り上げましたが、ここでは島秀雄の業績を象徴するいくつかの資料を紹介してみたいと思います。

戦前の資料の中には、鷹取工場に勤務していた頃の記録として、1938(昭和13)年に鷹取工場最初のD51形蒸気機関車として新製された211号機(現在は神戸市王子公園で保存)との記念



②D51形蒸気機関車と島秀雄
鷹取工場で新製された211号機と島秀雄(中列向かって左から3人目)



③C62形蒸気機関車の製造記録写真

写真があります。

また、1948(昭和23)年に新製されたC62形蒸気機関車1号機の組立順序を記録した写真もありますが、C62 1は現在、梅小路蒸気機関車館(京都市下京区)で保存されています。

国鉄退任後の資料としては、NHKのラジオ番組に出演して鉄道の解説をした際の草稿があります。島は、1954(昭和29)年6月14日に放送された「生活の科学」という番組に出演し、「鉄道の科学」と題して機関車の走る仕組みなどを解説しましたが、保存されている草稿の端には「放送の時はもう少しわかりやすくしないと中学生には理解出来ない」というメモ書きがあり、気配りを怠らなかつた人柄が偲べれます。

技師長時代は、東海道新幹線の総指揮者として多忙を極めたためか、新幹線そのものに関する写真や記録は意外に少ないのですが、在任時の1962(昭和37)年に招かれた浜松工場創立50



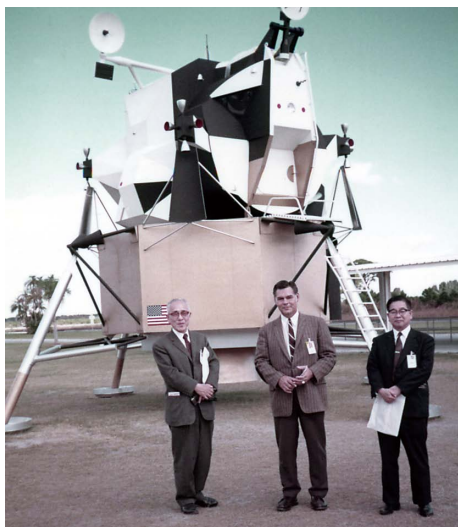
④NHK ラジオ番組の自筆草稿



⑤浜松工場50周年の模型SLと島秀雄(機関士の後方)



⑦島が撮影した東海道新幹線(1993年の撮影で、後方は芝離宮庭園)



⑥NASAを訪問した島秀雄(向かって左端)

周年記念式典の写真では、模型のD51形蒸気機関車に乗る姿などもおさめられています。

島文庫には宇宙開発事業団の頃の記録も多数含まれ、1970(昭和45)年にNASAのケネディ宇宙センターを訪問した際の写真などもあります。また、開業後の新幹線に関する膨大な新聞記事のスクラップもあり、開業後の新幹線に関心を持ち続けていたことが理解

できます。新聞記事そのものは公共図書館でも縮刷版などが閲覧でき、資料としても二次資料になりますが、切抜帳は個人の意志によって作成されたオリジナルの資料ですので、一次資料として貴重な価

値があります。

晩年の資料の中には、1993(平成5)年に浜松町の世界貿易センタービルの自室から撮影した東海道新幹線の写真が含まれ、最後まで新幹線の行く末を見守り続けていました。

■ 島文庫の意義

蔵書は、その所有者の人生を映す鏡でもあり、どのような書物を読んでい

たのかは、人物像を知る上でも重要なポイントです。島文庫には、技術関係の文献に混じって一般的な学術書、哲学書、美術書なども含まれます。先陣が遺した貴重な資料を後世に継承することは、私たちに課せられた重要な使命です。

(小野田滋/情報管理部 担当部長)

文献

- 1) 島秀雄：新幹線そして宇宙開発，レールウェー・システム・リサーチ，1987
- 2) 高橋団吉：新幹線をつくった男・島秀雄物語，小学館，2000
- 3) 島秀雄遺稿集，日本鉄道技術協会，2000